

ASIAN WOMEN'S FUND NEWS no.4 1996/02/05

tel. 03-3583-9346

財団法人・女性のためのアジア平和国民基金(アジア女性基金)事務局

◎郵便振替口座:00180-3-71164 ◎〒107東京都港区赤坂2-17-42 赤坂アネックス

フィリピン、台湾を訪問…対話チームが始動

アジア女性基金の事業実施に向けて、対話チームがフィリピン、台湾を訪問し、それぞれ政府関係者や支援団体、元「従軍慰安婦」との対話の成果をもち帰りました。フィリピンには有馬副理事長、林運営審議会委員、台湾には下村理事と中嶋運営審議会委員。双方に和田事務局長と事務局員が同行しました。

フィリピンでは政府関係者、支援団体のリラ・ピリピーナ役員、元「従軍慰安婦」の方々と会い、アジア女性基金の説明をするとともにそれぞれの要望を聞いて懇談しました。また台湾では亜東関係協会関係者、台北市婦女救援社会福利事業基金会の役員、当事者らと同様に懇談、意見交換を行いました。基金に対する見解や要望をうかがったうえで、基金は、今後もさらに誠意をもって、充分に関係者と協議しながら基金の事業を行っていくことを確認しました。

この対話の開始によって、具体的な課題について協議していく道筋を開いていきたいと考えています。

新政権の「3党合意」で「着実に取り組む」

橋本政権の発足に向けて、与党である自民党・社会党(現社民党)・新党さきがけは1月8日、「新しい政権に向けての3党政策合意」を取り決めました。「Ⅱ 引き続き取り組む課題」の中で、アジア女性基金などについてつぎのとおり触れています。

「14. 昨年、終戦50周年の節目に当たり歴史の教訓・反省に学び、未来を臨んで人類社会の平和と繁栄の道を歩む決意をした。今後、戦後処理問題については、歴史資料センターや子供図書館の設立、平和友好交流計画の推進、女性のためのアジア平和国民基金への支援・協力その他解決すべき諸問題に着実に取り組むとともに、アジア諸国民等との信頼関係を確立する。」

この点については、総理府でも、「橋本総理から、アジア女性基金支援を積極的に進めるようにとの指示を受けており、政府として引き続き最大限の協力を行っていく」と話しています。

寄付をいた
いた方からの

声

◎人間としておわび

・女性としてというよりは、人間としておわびしてもおわびしてもしきれぬ問題ではありませんが、この過ちを今後決して繰り返さないこと、そのための意思を生涯持ち続けることで、おわびしたいと思います。(仙台市・女性)

・議論はあっても行動することが大事だと考え、ささやかながら協力させていただきます。(東京杉並区・男性)

・ドイツ同様に国家が補償を行うべきと思います。(横浜市・男性)

・お詫びの気持ち。一日本国民男性・匿名。

・戦中、私はまだ子供でしたが、後に「従軍慰安婦」の存在を知り、この犠牲になった女性たちの悔しさを察して、このような非道な策を実行した日本軍隊に対する怒りで身が震えました。この罪の償いは日本人一人一人が果たすべきものと考えます。その具体的な行動の一つとしてこの募金の意義を認めます。(広島市・男性)

医療・福祉事業向け 1億5000万、尊厳事業等に 4億8000万円

アジア女性基金への補助金は、平成8年度政府予算(大蔵原案)では、総理府分約4億8000万円、外務省分150万ドル(1億5000万円相当)となりました。

総理府関係分は4億8120万6000円で、運営経費および女性尊厳事業費に関する補助金に充てられます。

元「従軍慰安婦」への医療・福祉事業に充てられる予定の予算は外務省分に計上され、150万ドルとなっています。

募金総額は1億4000万円に

1月31日現在、アジア女性基金へのみなさんからの募金総額は、1億4160万4403円に達しました。一般、職域を問わず、基本は個人の方々からのご寄付によるものです。

◎個人・法人とも、寄付は免税になります。昨年、財団法人となり、寄付金は、法人、個人とも所得控除を受けることができ、免税となります。

◎銀行口座を開設

このほど銀行口座を以下のとおり開設しました。

▽寄付金銀行口座：三和銀行東京公務部 普通預金口座＝1006516 名義＝財団法人女性のためのアジア平和国民基金

◎集会などに、基金からうかがいます。ご連絡ください。

「従軍慰安婦」問題にどのように対応するか、基金をどう進めるかについて、集会に基金関係者が出向いてお話しします。交通費などは原則、基金が負担します。日程などについてはご相談させてください。

アジア女性基金の歩み

●—1995年

- 6月14日 五十嵐官房長官、女性のためのアジア平和国民基金の事業、政府の取り組み、「呼びかけ人」名簿を発表
- 7月18日 呼びかけ人の「よびかけ文」、村山総理「ごあいさつ」発表
- 7月19日 女性のためのアジア平和国民基金が発足、東京都港区赤坂に事務所開設
- 7月27日 原文兵衛前参議院議長、理事長に選任
- 8月1日 設立の集い(東篠会館)
- 8月11日 政府、アジア女性基金の事業に協力する旨、閣議了解
- 8月15日 新聞などで呼びかけを行い、募金活動開始
- 9月22日 募金総額5000万円を突破
- 10月19日 大阪「平和・人権センター」の集会に下村理事が出席
- 11月10日 前後に中央紙・ブロック紙・地方紙に「呼びかけ」を掲載
- 11月27日 日本記者クラブ主催記者会見にアジア女性基金原理事長、平林外政審議室長らが出席
- 12月6日 募金総額1億円を突破
- 12月8日 女性のためのアジア平和国民基金に財団法人許可(総理府・外務省＝共管)
日本外国特派員協会「昼食会」に呼びかけ人の大鷹・衛藤・大沼氏らが出席
- 12月16日 山形シンポジウム「アジア女性基金を考える」に大鷹・三木・大沼氏が出席
- 12月25日 アジア女性基金への寄付が指定寄付金等(所得の控除)に指定される(官報告示)

●—1996年

- 1月21日 韓国へ非公式訪問(24日まで)対話チームがフィリピン(22—25日)、台湾(24—27日)訪問

最近の報道から

月刊雑誌「世界」(岩波書店発行)1996年2月号の「読者談話室」ページに掲載▼

*ききょう(トラジ)の会から「基金反対の投書」が2月発売号に掲載される予定

●恩給年金の一部で

田村賢雄

私は参戦体験のある旧海軍老兵、かつ軍人恩給年金を受給する軍人恩給連盟(以下軍恩連という)の会員でもある。

近時頻りに話題に上る「従軍慰安婦」に、世話になったか否かは問わず、接する機会のある得た世代に属する。論議の中心たる彼女達への国家補償の可否に対して、最も意見を有する世代なのに黙して語らぬのは事の性質上やむを得ぬとして、政府(総務庁)へひたすら恩給増額



窓 恩給連盟から

橋本自民党総裁が「女性のためのアジア平和国民基金」の原文兵衛理事長らを党本部に招いたのは、首相就任を翌日に控え、組織準備で多忙をまわめていた今月十日のことだ。

橋本氏は金買製の大野貯金箱を差し出した。「家族みんなのためものです。明日からは、お会いしてこれを差し上げる時間がないので」

貸ばかり、合わせて三十九万六千円余りが詰まっていた。この基金は、うまでもなく、日本軍の従軍慰安婦として性的奴隷とならざることを強要された外国人女性を対象に、償いのための事業を行う団体である。国民からの寄金による一時金の支給、政府資金による福祉医療活動などに取り組むこととして、お金の集まり具合は決しているが、お金の集まり具合は決して願望ではない。

首相の奇金

遺族会の会長を務め、極東軍事裁判に疑義をかくさず、戦後補償問題にも慎重な姿勢を示してきた橋本氏、基金への寄付は「タカ派」「民族派」にはそぐわないように見える。

首相は施政方針演説でも歴史観を明確にしなかった。元氣の出る話題ではないし、何を語っても政権運営には得にならないという配慮だろう。だが、それでは、首相が述べた「日本人に生まれたことに誇りと自信をもつことができる国」は遠い。

のための予算獲得に専念するのに見える圧力団体たる軍恩連の会員として、役員の手引に唯唯諾諾としていないか。戦争に行つて命を磨り減らした代償が恩給であると感じた人も居た。命を懸けたのは内外の老幼男女すべてであった。

軍恩連上部組織に全国連合会というものがあつた。渡邊美智雄会長(当時)に対して今年七月十五日に「従軍慰安婦」問題につき質問状を発信した。何の回答もないうち、九月十五日突然病死された。

学者や諸団体、個人方が、八月十五日新聞に公表の「女性のためのアジア平和国民基金」設立に反対する。国家補償が当然、民間基金もつての外、廃止せよという趣旨である。国家補償を先行できぬならしめない現政府を迫られているうち

に、時は矢よりも速く過ぎるものである。税金からでなく、個人の自由意思として支出することがおかしいのであろうか。誠意を披瀝して受け入れていたたくべく、次善の策として基金に応じようではないか。



「ききょう(トラジ)の会」というところでは、一個三百円のバツジを有志者から購入してもらい、二百円を現に受け入れていただいているのである。軍恩連員方にお願ひしたい。彼女達に接した、接しないをあげつらわずに、謙虚に詫言を

乞ひ、受給している恩給年金の何%かでも「女性のためのアジア平和国民基金」に送金しようではないか。聖書に「一献金」という語句があるそうである。私は今後、恩給年金の支給を受ける限りその一割を彼女達に、如上の国民基金を通して献げる。

(新潟県 77歳 元海軍大尉・無職)

「朝日新聞」96年1月24日付夕刊に掲載▲